

(3) 人文・社会科学分野の教育における特色ある取組

大学院

文学研究科

- ・自ら課題を設定した、文献読解、実験、実地調査を遂行
- ・独立した研究者として修士・博士論文を執筆し、専門学術誌に論文を投稿できる能力を養成
- ・ハイデルベルク大学との国際連携により、修士課程ジョイント・ディグリー専攻における英語による国際連携修士学位取得を実現 など

教育学研究科

- ・大学院進学を想定した専門教育カリキュラム提供
[学部ゼミへの大学院生(TA)の参加、院科目71科目を学部カリキュラムへ組入]
- ・社会との往還型教育を「教育実践コラボレーション・センター」、「臨床教育実践研究センター」を通じて推進
- ・徹底した卒業論文指導と厳格な評価制度 など

法学研究科

- ・研究に必要な文献・研究資料の読解能力や外国語能力等の向上をめざし、討議重視の授業(少人数演習方式)を実施
- ・正指導教授1名と副指導教授2名を指定し、授業時間に限定せず研究指導を受ける時間を促進
- ・少人数クラス制のもとで双方向・多方向形式による密度の濃い授業を行い、学生の主体的学習を実現(法曹養成専攻) など

経済学研究科

- ・大学院教育を学部4回生から前倒して提供し、5年間で学士と修士の両方を取得可能とする「4+1制度」を開始
- ・ポスドクの研究環境を整備したジュニア・リサーチャー制度等、産官学、学内外、先輩諸氏を交えて切磋琢磨し、創造性を刺激する機会を常に提供 など

人間・環境学研究科

- ・指導教員に加え、副指導教員やアドバイザーを配置し、学生の研究活動を支える重層的な指導体制を構築
- ・共生人間学・共生文明学・相関環境学の3専攻を置き、それぞれに近接分野を集めることで、専門性の裾野を拡大
- ・異なる専門分野の院生が演習と一緒に参加することで、学際的な教育研究を日常化 など

学部

文学部

- ・学内外から多様な研究者を招き、課題、言語、技術に関する授業等により第一線の新しい研究状況に触れる機会を提供
- ・学生が一次資料に基づき、時間をかけて自修し、少人数の対話・議論による演習へ参加することを促進
- ・国際性強化につながる主要言語(日本語を含む)の教育強化への取組 など

教育学部

- ・理論と実践との密接な連携や小人数教育による対話型教育を推進
- ・初年次において、探究型・問題解決型学習を発展させる科目を導入し、汎用的能力を育成
- ・専門に関わる外国語も含むコミュニケーション能力等を身に付ける科目配置のほか、専門の基礎となる知識とスキルの習得のため、能動的学習を促進 など

法学部

- ・法学・政治学の基礎的概念や知識を体系的かつ実質的に習得できる科目編成・コースツリー・キャップ制の設定
- ・少人数制での演習を配置し、研究者教員ならびに他の学生との双方向的・多方向的な対話により定着
- ・蔵書の充実や自習室の環境整備を進めるなど、自主的な学修を進められるよう便宜 など

経済学部

- ・学びの各段階に応じた少人数の基礎・専門教育を提供し、主体的思考力・創造性を涵養
- ・歴史・理論、政策、マネジメント、ファイナンス・会計の4領域の履修モデルに基づいた学習を促すことにより、柔軟な専門性の獲得を支援
- ・大学院教育を学部4回生から前倒して提供し、5年間で学士と修士の両方を取得可能とする「4+1制度」を開始 など

総合人間学部

- ・教養・基礎教育と専門教育を一体化し、多様な専門分野に触れさせるほか、主専攻と副専攻の設定により、分野を横断する学びを促進
- ・総合フィールド演習など学部独自の学際的科目の開講など、さらなる多様性をもたらす開かれた学修機会を提供
- ・学部独自の少人数セミナーや演習を通して、対話力や表現力を養成 など